

令和3年度第1回中野市総合教育会議 会議録

- 1 日 時： 令和4年1月25日(火)午後3時00分から午後4時00分まで
- 2 場 所： 中野市役所 5階 会議室52. 53
- 3 出席者： 市長 湯本隆英、教育長 堀内敏明、教育長職務代理者 永江文樹、
教育委員 小野良一、武田美穂
副市長 竹内敏昭、総務部長 酒井 久
教育次長、学校教育課長、生涯学習課長兼図書館長、公民館長、博物館長、
学校教育課総務係長、学校教育係長、施設係長、清野指導主事、荒井指導主事、山田副主幹
- 4 欠席者： 教育委員 相子靖子
- 5 会議事項：(進行 市長)

(1) 中野市教育大綱の進捗状況について (資料により学校教育課長が説明)

市長：ただ今、説明がございましたが、早速ですが本日お集まりの教育委員の皆様から、ご意見、ご質問等がございましたらよろしく願いいたします。小野教育委員さんいかがですか。

小野委員：はい、それではせっかくのご指名ですので、感じていることをそのまま申し上げたいと思います。前回の中野市の教育大綱、これに沿って私もさせていただいてきたわけですが、今回令和の時代になって、これから新たにこの先の市の教育の一番の柱になる、いわゆる計画書ですけども。前回のこのものを、そのまま踏襲して、そしてそこへ新たなものを付け足すというような形の大綱ではなくて、ぜひ令和の時代になって、学習指導要領も新しくなって、世の中も随分多様性だとか、SDG sだとか、あるいはICTだとか、かなり6年前とは違った情勢になってきているし、子供たちもこれから先、生きていく力として、今まで大事にされてきたことも、もちろん踏襲して大事にしていって欲しいんですけども。これから先のことを見据えた形で、全く新しいというふうにはならないと思いますけども、そういったちょっと新鮮味のある大綱にしていって欲しいなというふうに、考えています。そこで、一つの例を挙げると、私、この「5つの柱」というのは非常にいい目標だなあとということで、これからこの後も、これは、これによって、進んで欲しいなと。学校の先生たちに聞いても、やっぱりこれから中野市の教育で大事にしていって欲しいことは何だという話をすると、やっぱり、この子供たちには、ふるさと、ふるさと中野市を愛する、そして中野市に戻ってきけるような子供にしていきたいと。前からふるさと学習っていうのが行われているわけですけども、単に地域の文化や、あるいはいろいろな特徴を学ぶだけではなくて、もっとやっぱり子供たち自身が、これからの中野市、何を目玉にしていくんだと。これからどんなふうになれば、少子高齢化も解消していけるんだ、あるいはもっと住みよい市にしていけるんだ、というような、いわゆるそのふるさとをこれから良くしていく方向を俺たちも学ぼう、学習しようっていう、そういう意味でのふるさと学習を、どの学校でもね、展開をしていって欲しいなと思います。よく、子ども議会だとかね、あるいは、まちづくり討論会や、ああいうところで、子供たちの夢っていうか、アイデアってのは、割とね、新鮮でいい視点のものもあるので、そしてそのことを考えることによって、俺たちの郷土、俺たちのふるさとを、俺たちが良くしていこうっていう気持ちもうんと育つと思うので。単に知識や何かを、ふるさとのものを学ぶ

というふるさと学習ではなくて、そういう未来に向けて、一緒に考えていけるようなふるさと学習を目指して行って欲しいなというふうに思っています。それぞれの柱をみんなきつとそんな形で見直しをすると、随分新しいものになるのではないかな、というふうに思います。以上です。

市長：ありがとうございます。永江職務代理者さん、いかがですか。

永江代理：今、小野委員さんが言われたこと、非常に大事なことだというふうに思いますが、長野県で一番人口の多い村、南箕輪村、なぜあそこ人口がいいのか。今も増えているのはどうして何だろうと私考えたんですけども。一つはやっぱり、教育環境が整っている、良くそういうふうに言われるんですけど、この前、広報を見ていたら、中野市の給食費、県下の中でも非常に安いと載っていましたが、あれは広報を読んだ人にしかわからないので、市民の中で読んでない人いるかもしれない、だからその辺をもっとアピールしてもいいと思う。私だけじゃないと思うんだけど、ひょっとしたら私だけかもしれないけど、小学校の時の思い出で何が一番多いかっていうと、給食なんですよ。だから湯本市長さんが給食費を下げたのは非常に良かったなど。給食が充実してるいと子供たちは、意外と覚えているんですね。それで、こういう時期はこれが出たなど。ちょっともう統合なつてあれですけども、旧豊田村では、何年生だったかな。修学旅行へ行くときには、給食を作る人数が減るので、笹寿司が出たんですよ。聞いたら、木島平でもやっている。だから、そういう珍しいものっていうのは子供たちは覚えているんです。だから、そういう特色のある食育っていいですかね、それをやっていっていただけたらなというふうに思います。お母さんたちやお父さんたちは、給食費が安いとか、おいしい給食だとか、さらには医療費がかからない。東京都は18歳まで、高校生までただにするっていう話を最近出したみたいですけど。だから、そういうような、何か他と違うぞっていうところが目に見えてわかるといいなっていうふうに私は思うんですけど。またご検討よろしくお願いします。

市長：ありがとうございました。武田教育委員さんどうぞ。

武田委員：お疲れ様です。今年から教育委員になって初めて参加させていただきます。今日最初にいただいた資料の方を読ませていただきまして、自分自身が医療関係者でありますので、そちらの福祉の方とかも全部読ませていただいたんですけども。しっかり10ヵ年計画ということで、半分土台ができてきているなと感じます。自分も子供がおりますので、その学校の、これですね、気にはなるところではありますが、子供たち、中学校にありますが、学習の中でSDGsとか、小野先生もおっしゃっていましたが、その辺のこととかもしっかり学習できているなと思います。子供がこれで高校受験になるんですけども、その時に志願理由書というのを書きまして、それをちょっと親として読ませてもらったんですけども、その中で中野市に向けて、ちょっと読ませていただきますね。

「今の僕たちにできることは何かというSDGs活動を行った。僕は中野市の主産業の農業について調べた。中野市はブドウやキノコなどの農作物の生産が盛んで、もっと農作物の魅力発信していくことができれば、中野市が発展していくことができる。僕達の積極的な地産地消も発展に繋がっていく、と考えました。僕は将来、中野市をもっと暮らしやすい場所にしていきたい。」ということで、彼は中野市に戻ってくる気、満々なんですけれども。永江先生もおっしゃっていましたが、中野市の給食は非常においしいと思います。私は教育委員をする前に給食委員会というのにも携わらせていただいたんですけども。毎日のこの給食のメニューを自分の財布の中に入れてみて、それで献立が重ならないようにとか、ちょっと家の献立を考えたりしていた時期がありました。で、地産地消中野

市キノコとかねふんだんに使っていますけれども、やはり、非常に自分も給食を食べさせていただいた機会もありますが、とてもなんかおいしかったですね。子供たちも、先生がおっしゃっていたように、今これを食べていたんだっていうのは、将来確実に残るものとして思い続けていただけたらと思います。今ちょっとコロナ禍で学校が休校になったりする中で給食が食べられない時期もあって、ちょっと子供が残念だなと言っていましたけれども。そのへんとかも踏まえながら、今後、この土台を、より良くというか、非常に良いとは思いますが、子供たちのためにも、しっかり親たちが、また、大人たちが支えていければいいなと思いました。つたない意見で申し訳ありません。よろしくお願いします。以上です。

市長：ありがとうございます。教育長さん。

教育長：それではお願いします。小野委員につなげてですが、ふるさとへの愛着ということについてです。先週金曜日に、総合格闘技の宮澤雄大さんが、市長訪問というようなところで市長のところに訪問した後、教育長室にも顔を出してくれました。どういうことかというところ、生まれ育ったこの中野市に恩返しをしたい、というようなところで、何かできることはないかというところで、私に話をしてくれたんですね。それを聞いたときに、中野市で生まれ育った、そのことを今も。27歳になったんですけども、私の下の子と小学校同級で、一年生のとき同級生だったんですけども、非常にそのことを大事にしている。7月にスポ日に大きく載って日本3位というところで載ったんですけども。その時にも同じようなことが記事になっていました。それを思うと、いろんな分野でそれぞれ自分の道を歩んでいくんですけども。その帰着になるというか、帰ってくる場所はやっぱりふるさとなんだらうな、と思います。ですので、そのふるさと教育、ふるさとへの愛着という言葉もありますけれども、これを大事にしている中野市。これは継続して大事にしたいな、というようなことを思いました。と同時に、時代と共にその時代に合った教育を、というようなところで、小野委員おっしゃいましたが、昨年2月に国の方で、中央教育審議会という機関があるんですが、そこで令和の日本の教育というのを打ち出しました。そこで、キーワードになったのが、個別最適な学びと協働的な学び、これは後の方で話題になってきますが、これが盛り込んでありますけれども、そのことも大事にしながら、どんどん時代が変わってきている。1人1台のタブレット端末、というようなところもありますけれども。そういうようなところも含めて、時代とともにあった教育大綱を作り、そして中野市ならではの、っていいですかね。中野市の教育っていうようなところを打ち出していただければいいかなと思います。それから永江委員と武田委員から給食ということが出ましたけれども、本当に19市の中で一番安く、そして消費税が上がったときにも上げずに頑張っていて、その分献立を立てる方が非常に苦労されているんですが、内容的にも大変おいしい。私たちも大人になってからも、給食にこういうのが出たな、ああいうのが出たな、こうだったよな、っていう、やっぱり話題になるんですね。ですので、この給食っていうところも、ふるさと教育にも繋がるし、大事であるし。中野市が6割以上を毎年地産のものを出しているっていう、こういう特徴的なところもあります。その分、いろいろな物が豊富である中野市という。ですので、今は違った意味で、黙食、コロナ禍ですので、黙食になっていますが、本来は黙食っていうのは、感謝を込めながら食べる、感謝の気持ちを抱きながら、というか、持って食べるっていうことだと思いますので、そういう意味では本当に、栄養士がコロナ禍ではありますけれども、学校訪問しながら、給食の方の指導、食育をしているっていう、こういうところも大事な中野市の教育の一つかなというこ

とを思います。ですので、本当に中野市ならではの教育、というようなものを語り出せば、色々なことが出てくるなど。外に向けて誇れることがたくさんあるな、ということだと思います。そんなことを盛り込んでいくことができれば良いかな、と思っています。以上です。

市長：はい、ありがとうございます。竹内副市長さん、感じたことでいいですから、どうぞ。

副市長：すみません、委員の立場ではなく、市の行政の立場から、申し上げさせていただければ。今、それぞれの委員さんから、意見というか、感想をいただきまして、私もまさしくそのとおりでございまして。同感でございまして、教育の目標というのは、本当にいくつか、もちろん子供のための教育、情操教育も含めて、キャリアアップとか、色々な意味での道徳教育もありますけれども。やはり子供たちが将来、記憶に残る、今の給食の話もそうですし、私なんか特に、中野市は非常に童謡と唱歌のふるさとなので、高野辰之先生それから、中山晋平先生らがおられるので、ぜひ、そんなことも含めて、私個人の感想ですけれども。しっかりと、ふるさと教育を続けていっていただければ、と思います。ちなみに私もこれ以前聞いた話ですけれども、童謡と唱歌をしっかりと教育した子供たちは、将来、要するに犯罪率が低い、非常に低いというデータが出たというようなことで、どこの研究のテーマかちょっと記憶にございませぬけれども。そんなこともありますので、ぜひそんなことも含めてですね、情操教育といいますか、しっかりとした人間形成の時期としては非常に大切な時期なので。そういった意味では、そんな方向に向けて、ぜひまたやっていければな、というふうに思っております。よろしく願いいたします。

市長：はい、ありがとうございます。他にございますか、よろしいですか。小野先生。

小野委員：もう一つ、ちょっと違う視点から、普段考えていることを述べさせていただきたいと思うのですが。今、高齢化社会という中で、生涯学習とか、生涯スポーツとか、そういうものが非常に大事だというふうにされてきておりますよね。この、市の総合計画の中にもうたわれてあるわけですが。それと、この前から始まっているコミュニティスクール活動というのも、何とか結びつけられないかなっていうことをいつも感じています。学校ではいろいろな外部講師という形で、色々なところへ協力を求め、ボランティアを募集しているわけですが。何かもっと効果的に、この公民館活動だとか、図書館の活動だとか、あるいはいわゆるそういった形での社会教育っていうんですかね。そういうところで一生懸命されていることが、学校教育のこのコミュニティスクールとうまくコラボして。どちらもうんうんじゃないけれども、やって良かった、やっていただいて良かったっていうような形の教育活動がどんどん展開されていけば。今、世の中で問題になっているコミュニティっていうのが、うんと強固になったり、結びつきがね、良くなって地域との交流というか、子供たちが地域の中で育つ環境が、うんと充実していくんじゃないかなっていうふうに思います。それで、どっちかという行政の中では、体育は文化スポーツだったかな。図書館は図書館とか社会教育、学校教育はコミュニティスクールをやっている、というふうに、何かこう、それぞれの受け持ちがあるみたいな形になってしまっているんですが。やっぱり子供たちにとっては、統合的にそれが上手く結びついた形で展開されていくようになれば、もっともっと効果が出てくるんじゃないかな、というふうに思っています。以上です。

市長：他に無いようでしたら、中野市教育大綱の進捗状況については、以上といたします。それでは、会議事項の(2)新たな中野市教育大綱の策定について、これを議題といたします。事務局より説明をお願いします。

(2) 新たな中野市教育大綱の策定について（資料により学校教育課長が説明）

市長：ただ今、「新たな教育大綱の策定方針」及び「総合計画・後期基本計画 素案」の説明がございましたけれども、教育委員の皆様から、忌憚のないご意見、ご質問などございましたら、どうぞよろしく願いいたします。そういえば、さっきからの話でちょっとそのSDGsとかそういう文言というのは、この中に触れられているのかな。

学校教育課長：はい。具体的に今、基本計画の中に教育委員会分野でSDGsという言葉自体が出てきているわけではありませんけれども、すでに学校でも教科書に載ってるワードありますし、取り組みをされてきておりますので、具体的な授業の中には入っていると思います。例えば20ページ、そのワードそのものが入っているという作りには、今のところなっておりません。

市長：委員の皆様からどうぞ。永江職務代理者さんいかがですか。

永江代理：中野市は、先ほど副市長さん言われるように高野辰之、中山晋平など、偉い人達いますが、そのほかにも歴史的な遺跡がかなり他の地域に比べても、ある方だと思うんです。ところが残念ながら、本当に残念ながら、そこから出土したもの、若しくはそういう現場へなかなか行けない。それがちょっとあれかなあ。率直に言いますと、図書館と博物館と、あんなに離れている必要はないんじゃないかなあ。もっと1カ所に集まっていれば、いいんじゃないなあ、っていう気はずっとしていたんです。(仮称)山田家資料館も、そうですね。あそこも、ちょっと駐車場は少ないし。だから、そういう面を整備して、小学生や中学生でも、時々行っているんなものを見られるという。そういう施設がどこかにあればいいなという気がしています。うちの子供なんかも、博物館には1回行ったきり、プラネタリウムを見に行ったらきりですね。確かにそれが現実だと思うんです。だから、もう少しコンパクトに。さっきから私、お金のかかることしか言っていないんですけど、なれば非常にいいのかな。山田家の資料館に、高橋由一さんの絵がありますよね、あれだって、一般の人たちがなかなか見られるわけじゃない。前にもどこかで言いましたが、市民会館の二階の方にも持ってきて、みんなで見られるように。中野市の遺跡で出た色々な遺物も、あの辺に展示して、皆で見られる、来た人が見られるように、子供たちも気軽に来られるように。そういう何かがないかな、っていう気がしております。だから子供たちも遺跡を見る、そこから出た出土品を見る。これ非常に大人になって大事なんですよ。中野市には名前のついた土器もありますし。あと、このまえ、市が発掘したわけじゃないから駄目なだけけれども。あの大俣で出た遺物。それから、私も広報で知ったんですけど、替佐の斑尾川ですか、築堤をやっている時に出てきた火焰型土器。なかなか他では見ることができないようなものも結構あるので。それをもう少し、みんなにわかるように、どういう方法でもいいんですけども、していけば、特に子供たちにはそういうものを見せてあげるっていうのは大事ではないかな、という気がするんですけども。以上です。

市長：ありがとうございます。武田委員さん、どうぞ。

武田委員：はい、数字の面でちょっと思ったことなんですけれども、例えば42ページの社会教育、生涯学習の充実などで、一応こうプロセス指標として、実績値、目標値が挙げられているんですけども、例えば中野まなびい塾の参加者数ですかね。実績値が207としてその目標値を600っていうのは、だいぶ大きな目標なのかなって、ちょっと個人的には思ったりするのですが。もしその目標値が、後期のその計画の終了時点で届かなかったら政策は失敗になってしまうのかな、というような疑問もありますので。目標値をどのように設定しているのかなとは、私もわからないんですけども。例えば68ページの学校支

援ボランティア数、小学校でいうと実績値が 235 で目標値 350 とあるんですが、何か、やはりボランティアの方って高齢者の方が多いイメージなんです。今後、高齢者の方は多くなってくんですけど、実際、ボランティア数を、それで増やしていくにはどうすればいいとか考えた場合、ちょっと少子化が進んでいって、その孫がいるから、じゃあボランティアをするよっていう方もいると思うんですけども。その目標値をもう少し、そうですね、ちょっと頑張ればたどり着ける目標というような数字に変えてもいいのかなとは思いました。過程は大事と言いますが、やはりちょっと結果として、指標で表として表すときには、数字で届いたから、届かなかったから失敗なんだとか、そういうふうに思ってしまう方もいるのかなと思いましたので。すいません、ちょっと個人的にそのような意見を持ちました。以上です。

市長：次長、今の件について。

教育次長：今の 42 ページのまなびい塾とか、その下の公民館の事業の参加者の関係ですね。この令和 2 年度のは、コロナ禍の影響が非常に強くて。実際は、そのとなりに平成 26 年の実績の数値が書いてございますが、平成 26 年の時はこんな数字だったんですけども、いかんせん、色々な講座もそうですし、公民館も休館したりしている時期があったりということで。令和 2 年、それから例えば今年の令和 3 年の数字は、だいぶ違うのかなって感じがします。ですので、目標値については実績値よりも前期の策定時の数字を参考にさせていただいているという形ですので、その辺はご了承いただきたいなと思います。またボランティア、小学校のボランティア数ですね。先ほどのあのおり、年齢が若い方についても、いろいろ参加していただきたいという面もございます。いきがいという形もありますけれども、色々な方に参加していただきたいという希望もありますので。そんな形で増やしていきたいという希望の数字でございます。よろしく申し上げます。

市長：小野委員さん、いかがですか。

小野委員：はい、それでは、大きな市の総合計画。きっとたくさんの方々が、色々と知恵を絞って、今、作っておられるんじゃないかなって思うので、軽々しいことは言えないんですけども。中野市を愛する市民の 1 人として、やっぱりこれからどんなものを中野市は目玉にしていって、そしてそれをどういうふうアピールしていくかというふうなことも含めて、いろいろな、さっき子ども議会の話もしましたが、いろいろな方のいろいろなアイデアを、これからどんどんこう、聞きながら計画を進めて、今もそういうふうに行われていると思うのですが、計画を進めていって欲しいなというふうに思います。お聞きすると、市役所の中にも、このプロジェクトチームみたいなものも出来たり、新しい方向で若い力や新しいアイデアが、市のこの方向に反映されるようなシステムになってきているということで、非常に期待をしているわけですけども。そんなわけで、頑張りたいなというふうに思います。以上です。

市長：ありがとうございます。教育長さん。

教育長：先ほどの永江委員のことに関連してなんですけれども、できるなら本当に 1 カ所に、近くに集まっていると、いろんなものを効率的に見られるかな、ってことを思います。博物館にも本当に遺跡が、立派な柳沢遺跡等のものも展示されていますし。そうしたようなものをと考えると、例えば、廃校になった学校のところの教室等を使えば、いろいろなものが展示できるかな、っていうようなことは思いますけれども。そういうようなところも一つの工夫かなと思います。それから目標値についても、例えば 20 ページのところできくと、朝ご飯を食べているとか、バランスのよい朝食を食べる、これは子供たちを通して、

家庭のあり方というか、家族、お父さん、お母さんの保護者のあり方というところを高めていく、ということなんですけれども。子供たちだけではどうにもならない、あるいは学校教育だけではどうにもならない、家庭教育のものも含んでいますので、なかなかここら辺が難しいなど。ただ、全国学力・学習状況調査によると、長野県は非常に朝食をとっているとか、こういったようなところの数値が高いんです。中野市は、ひときわまた高い数値なんです。ですので、目標値をどのように定めるかっていう武田委員からの問題提起もありましたけれども、あくまで朝ご飯の100%っていうのは、目指すところであって、決してアドバルーン的なものではないんですけれども。なかなかその子供たちを教育して、学校教育だけではどうにもならない部分というのものも、あるのかなっていう。そんなことは感じています。それから公民館の方で、シニア大学、今年度はコロナ禍ということで人数を制限したのですが、やっぱり結構人が集まる。要は自分の趣味とかそういったようなものを生かして、そういう受講をしていくっていう、生涯学んでいくっていう、こういうような中野市民が結構いるんだな、ということを私自身そういうところへ参加させていただいて感じています。そういう人たちが生き生きと、人生100年時代を生き抜くっていう、そういうところでも大事な市の取り組みになっていくのかな、そんなことを感じています。以上です。

市長：はい、ありがとうございます。他にございませんか。よろしいですか。はい。それでは他にありませんければ、新たな中野市教育大綱の策定については、以上といたします。

(3) その他

市長：会議事項（3）のその他について事務局から何かありましたら、お願いします。

学校教育課長：はい、それでは事務局からお願いします。先ほど策定方針のところでも少しお話ししましたが、次回の会議は3月17日、午後2時を予定しております。ここで案を出させていただいて最終決定をお願いしたいと思っております。それに向けまして、今日いただきましたご意見は当然参考にさせていただきますが、まだ言い足りなかったとか、また思いついたとか、そういうことがあれば、いつでも構いませんので、事務局にお伝えいただければ、参考にさせていただきます。メールでも、電話でも結構でございます。特に、期限は定めませんが、できるだけ早くお話をいただければ、我々としても参考にできる部分が増えるかなと思っております。以上でございます。

市長：それでは何かないようでしたら、本日予定しました会議事項はすべて終了となります。それでは事務局にお返しします。

教育次長：はい、ありがとうございました。本日の会議録につきましては、後日、議事録としてホームページに、公開して参りますのでよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして中野市総合教育会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。お疲れ様でした。